# ソフトバンクグループの特許出願・権利化および外国出願の状況

― 生成 AI 関連「大量出願」の実態と権利化の進捗（2026 年 11 月時点）―

2026 年 11 月 1 日

Claude Opus 5.5

**要旨**

- **国内出願**：ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）は 2023 年以降、生成 AI 関連を中心に年 1 万～2 万件規模の特許出願を波状に行っており、出願公開件数は 2025 年・2026 年と 2 年連続で国内 1 位である。
- **権利化**：特許登録は 2024 年～2026 年 10 月末の累計で約 415 件であり、公開済み出願約 3.4 万件に対し約 1.2%にとどまる（筆者試算）。大量出願の大半は審査請求前とされ、第 1 波（2023 年 9 月出願）の審査請求期限は 2026 年 9 月に到来済みである。
- **外国出願**：WIPO の報告では生成 AI 特許ファミリー数で世界首位であるが、その大半は日本国内のみの出願とみられる（推測）。米国出願は確認できるものの、総件数は未確認である。

※詳細と出典は本文を参照。本文中の**【推測】**は筆者の分析・推論、**【未確認】**は一次情報で裏付けが取れていない事項を示す。

## 1. 調査の範囲と留意点

- **対象**：SBG（持株会社）が筆頭出願人である特許出願とした。通信子会社のソフトバンク株式会社（旧ソフトバンクモバイル株式会社）の出願は含まない。参考までに、同社名義の 2026 年の出願公開は 170 件、特許登録は 116 件である（2026 年 10 月 27 日時点）[1]。

- **データ**：特許庁統計、民間特許データベース（IP Force、パテント・インテグレーション）、WIPO 報告、報道・専門家記事を用いた。データベースごとに集計基準（筆頭出願人のみの集計か否か、データ基準日）が異なるため、数値には若干の差がある。
- **公開の遅れ**：特許出願は原則として出願から 1 年 6 カ月後に公開されるため、2025 年後半以降の出願の大部分は未公開であり、出願人別の件数を把握できない。

## 2. 国内出願の動向

### 2.1 出願件数の推移

SBG の国内特許出願は 2022 年まではごく少数であったが、2023 年に急増した。2022 年の 89 件から 2023 年には 9,403 件へと増え[2]、2024 年は 22,265 件に達した[3]。2025 年出願は、2026 年 9 月 14 日のデータ基準日までに公開された 2,050 件のみが把握可能である[3]。

**表 1　SBG の国内特許出願件数（出願年別）**

| 出願年 | 出願件数 | 備考 |
|---|---|---|
| 2022 年 | 89 件 | — |
| 2023 年 | 9,403 件 | 第 1 波（2023 年 9 月）を含む |
| 2024 年 | 22,265 件 | 第 2 波（2024 年 7〜8 月）を含む |
| 2025 年 | 2,050 件（公開済み分のみ） | 大半は未公開。12 月出願分は 2027 年夏頃に公開見込み |

出典：2022 年は文献[2]、2023〜2025 年は文献[3]（特許データ基準日 2026 年 9 月 14 日）。2023 年の件数は両文献とも 9,403 件で一致する。

### 2.2 三つの「波」

**（1）第 1 波：2023 年 9 月**　孫正義会長は 2023 年 10 月の「SoftBank World 2023」で、グループで生成 AI 関連の特許をここ数カ月で 1 万件以上出願したこと、自身も 1,000 件を超える見込みであることを明らかにしていた[4]。その後の公開により、同年 9 月出願の 8,959 件に、同月を優先日とする 1,030 件を加えた計 9,989 件が確認され、発明者は 6,850 名にのぼった[5]。2025 年 4 月 2 日に 1,808 件、3 日に 1,761 件が一斉に公開されたことも報じられている[6]。

**（2）第 2 波：2024 年 7〜8 月**　特許庁は 2024 年 11 月の産業構造審議会財政点検小委員会で、2024 年 7〜8 月に特定の企業による大量出願があったと報告していた。2026 年 1 月 1 日〜2 月 27 日に公開された SBG の出願は 7,486 件（出願日は 2024 年 8 月 16 日まで）にのぼり、当該企業が SBG であることが明らかになった[7]。月別では 7 月 2,512 件、8 月 9,421 件、9 月 1,143 件とされる[8]。

**（3）第 3 波の候補：2025 年 12 月**　特許庁の統計速報によれば、2025 年 12 月の国内特許出願は単月 82,188 件と前年同月比 168.9%増となった[9]。2025 年の年間出願件数は 358,317 件で、2024 年の 306,855 件から約 5.1 万件増加している[10]。これを SBG の第 3 波とみる向きがあるが[7]、出願人別の内訳は公開前であり、**【未確認】**である。該当出願の公開は 2027 年 6 月頃以降となる。

**表 2　SBG の大量出願の「波」**

| 区分 | 出願時期 | 規模 | 確認状況 |
|---|---|---|---|
| 第 1 波 | 2023 年 9 月 | 計 9,989 件（同月優先日分を含む） | 公開済み・確認 |
| 第 2 波 | 2024 年 7〜8 月 | 7 月 2,512 件、8 月 9,421 件 | 公開済み・確認 |
| 第 3 波候補 | 2025 年 12 月 | 国内全体で単月 82,188 件（前年同月比 +168.9%） | 未公開・出願人未確認 |

出典：第 1 波は文献[5]、第 2 波は文献[7][8]、第 3 波候補は文献[9]。第 2 波の月別件数は文献[8]（生成 AI による分析資料）によるため、原データでの再確認を推奨する。

## 2.3 出願公開件数

SBG の出願公開件数は、2025 年に 10,400 件で国内 1 位となった（2024 年は 552 件で 47 位）[11]。2026 年は 10 月 30 日時点で 22,855 件と、引き続き 1 位である[12]。参考までに、2026 年 10 月 14 日時点の 2 位はトヨタ自動車の 5,245 件であり[13]、SBG は 4 倍以上の差をつけている。

## 2.4 大量出願の背景

SBG は 2023 年からグループ社員を対象に「生成 AI 活用コンテスト」を開催し、2026 年 1 月時点で 26 万件超のアイデアを集め、優れたものを特許出願している[14]。WIPO の報告も、SBG の特許活動を、国内での大規模 GPU 基盤の構築、米国の Stargate 計画への参画、OpenAI への出

資、子会社 SB Intuitions による日本語 LLM「Sarashina」の開発といった AI 戦略と結び付けて説明している[15]。

## 3. 審査請求・権利化の状況

### 3.1 特許登録件数

SBG の特許登録は、2024 年が 4 件[16]、2025 年が 55 件[17]、2026 年は 10 月 30 日時点で 356 件（取得件数ランキング 55 位）である[12]。2024～2026 年の登録累計は約 415 件であり、2020～2025 年出願の公開済み 33,807 件[3]に対し約 1.2%にとどまる（筆者試算。登録の出願年を問わない単純比較）。

**表 3　SBG の出願公開件数と特許登録件数（公報発行年別）**

| 公報発行年 | 出願公開件数（順位） | 特許登録件数（順位） |
|---|---|---|
| 2024 年 | 552 件（47 位） | 4 件（3,695 位） |
| 2025 年 | 10,400 件（1 位） | 55 件（455 位） |
| 2026 年（10 月 30 日時点） | 22,855 件（1 位） | 356 件（55 位） |

出典：IP Force（筆頭出願人のみ集計）。2024 年は文献[11][16]、2025 年は文献[11][17]、2026 年は文献[12]。2025 年の登録件数は更新時点により 56 件と表示される場合がある。

### 3.2 審査請求の状況

出願人別の審査請求件数を示す公的統計は、今回の調査範囲では見当たらなかった。特許庁の特許行政年次報告書は出願年別の審査請求件数を全体として示しているが[10]、確認した範囲では企業別の内訳は示されていない。

この点について栗原潔氏は、SBG の大量出願のパターンに該当する出願はほとんどが審査請求前であり、権利化よりも他社特許の成立阻止を優先しているのだろうとの見方を示したうえで、審査請求を経て登録に至ったものは 61 件にとどまると指摘している[18]（2026 年春頃の記事）。

### 3.3 一部案件の早期審査請求

2025 年 3 月 19 日に出願された案件（発明の名称「システム、システム」）が、2026 年 10 月 13 日・20 日に特許公報の発行に至っている（例：特許第 7927908 号、第 7933152 号）[3]。出願から登録まで約 1 年 7 カ月である。

特許庁全体の審査請求から権利化までの期間は 2025 年度平均で 13.2 カ月とされ[19]、出願直後に審査請求すれば平均的な審査でも到達し得る期間である。**【推測】**したがって、早期審査制度の利用までは推認できないが、少なくとも一部の案件は審査請求期限を待たずに出願直後に審査請求されており、事業上重要な案件を選別して権利化を進めている可能性がある。

### 3.4 審査請求期限の到来

特許出願の審査請求期間は出願日から 3 年であり（特許法 48 条の 3 第 1 項）、期間内に請求がない出願は取り下げたものとみなされる（同条第 4 項）[20]。

- **第 1 波**（2023 年 9 月出願）は、2026 年 9 月に審査請求期限が到来済みである。何件が請求されたかの集計は公表されておらず、**【未確認】**である。
- **第 2 波**（2024 年 7〜8 月出願）の期限は 2027 年 7〜8 月、**第 3 波候補**（2025 年 12 月出願）の期限は 2028 年 12 月となる。
- **【推測】**2026 年の登録件数の増加（55 件→356 件）には、3.3 で示した 2025 年出願の早期審査請求案件のほか、第 1 波・第 2 波の一部に対する審査請求も含まれるとみられるが、出願時期別の内訳は未集計である。今後 1〜2 年の登録件数とみなし取下げ件数の推移が、SBG が「どこまで権利化するか」を読み解く指標となる。

## 4. 外国出願の状況

### 4.1 WIPO 報告にみる位置付け

WIPO が 2026 年 7 月 14 日に公表した生成 AI 特許動向の報告によれば、2014〜2025 年に公開された生成 AI 特許ファミリー数で、SBG は 2,985 件と世界最大の保有者となった。その大半は 2023 年に出願され、2025 年に公開されたものである[15]。日本を発明者所在地とする生成 AI 特

許ファミリーは、2023 年の 398 件から 2025 年の 3,835 件へと急増しており（年平均成長率 210%）、主因は SBG とされる[15]。

一方、2 カ国以上で公開された国際特許ファミリー（IPF）は、2025 年に 3,297 件であり、生成 AI 特許ファミリー全体の約 9%にとどまる[15]。

**【推測】**SBG 単体の IPF 数は報告に記載がない。ただし、ファミリーの大半が第 1 波の国内公開と同時期（2025 年）に公開されていることから、その多くは日本国内のみのファミリーとみられる。

### 4.2 米国出願

- SBG 名義の生成 AI 関連の米国出願が、2026 年 3 月出願・同年 9 月 24 日公開で複数確認できる（例：US 2026/0289441、US 2026/0289255）[21]。
- 孫正義氏を発明者とする、車両の速度制御関連の米国出願が 2025 年 7 月 24 日に公開されている[22]。
- 2024 年には、ロボットアームのモジュラー関節に関する米国特許 US12036670B2 の付与が報じられている[23]（権利者表記の詳細は**【未確認】**）。

**【推測】**2026 年 3 月出願の米国出願は、出願から約 6 カ月で公開されていることから、2025 年 3 月頃の国内出願を基礎とするパリ条約上の優先権主張出願と考えられる。これは 3.3 で述べた国内の早期審査請求案件の出願時期と重なり、国内で選別した案件を米国にも展開している可能性がある。米国出願の総件数は**【未確認】**である。

### 4.3 PCT・欧州・中国

- PCT 国際出願、欧州・中国への出願の件数について、信頼できる集計は今回見つからなかった（**【未確認】**）。
- 海外の調査サービスが「SoftBank Group」として示す件数（日本以外に英国・WIPO・中国などへの出願が多いとするもの）[24]は、英 Arm などの子会社を含む集計の可能性があり、SBG 単体の外国出願の指標としてはそのまま用いることができない。

## 5. 補足：定款の事業目的の変更

SBG は 2026 年 4 月 28 日、定款第 2 条（目的）の変更を同年 6 月 24 日の定時株主総会に付議すると発表した（効力発生日は同日）。変更案では、知的財産権に関する事業の記載に新たに「特許権」が明記され、あわせて AI を活用したサービス、半導体、ロボティクス、データセンターに関する事業目的が加えられている。会社は変更理由を、事業の現状に合わせた明確化と説明している[25]。

**【推測】**特許権の取得・運用を事業目的として明確に位置付けたことは、大量に保有する生成AI関連特許の将来のライセンス等の活用に向けた布石とみることもできる。

## 6. 考察

以下は、上記の事実を踏まえた筆者の分析であり、全体として**【推測】**を含む。

- **出願戦略の性格**：大量出願で生成 AI 応用分野の先行技術を広く押さえ、権利化は選別的に行う「網」型の戦略とみられる。栗原氏の、他社特許の成立阻止を優先しているとの見方[18]とも整合する。
- **他社への影響**：SBG の大量の公開公報は、生成 AI 応用分野の先行技術として他社出願の新規性・進歩性の判断に影響し得る。生成 AI を用いた業務・サービスの発明を出願する企業は、SBG の公報を先行技術調査の対象に含める必要がある。
- **権利化の見極め**：第 1 波の審査請求期限が到来したことで、今後 1〜2 年の登録件数とみなし取下げ件数が、戦略を読み解く鍵となる。
- **外国出願**：現時点では国内中心であるが、2025 年以降は選別した案件を米国に展開する兆しがある。

## 7. 今後の確認事項

- 特許データベース（Patentfield 等）で出願人を SBG とする母集団を抽出し、経過情報（審査請求の有無、早期審査、拒絶理由通知、みなし取下げ）を集計する。
- ファミリー情報により、外国出願の出願国と件数（米国・PCT・欧州・中国）を確定する。

- 2027 年 6 月頃以降、2025 年 12 月出願分の公開を確認し、第 3 波の出願人を検証する。
- 第 2 波の審査請求期限（2027 年 7〜8 月）前後の登録・みなし取下げの動向を追跡する。

## 参考文献

※印は、自動取得が制限され検索結果の抜粋で内容を確認したものなど、一次情報を直接確認できていない文献を示す。URL の最終確認日はいずれも 2026 年 11 月 1 日。


[1] IP Force「ソフトバンクモバイル株式会社 2026 年の特許」（ランキング更新日 2026 年 10 月 27 日） https://ipforce.jp/applicant-626?s4=6 ※

[2] 株式会社 IP リッチ「特許出願増加の背景とソフトバンクの影響」（公開日未確認） https://patent-revenue.iprich.jp/%E5%B0%82%E9%96%80%E5%AE%B6%E5%90%91%E3%81%91/2876/

[3] パテント・インテグレーション株式会社「ソフトバンクグループ株式会社の特許出願動向・競合比較（日本）」パテント・インテグレーション レポート（最終更新 2026 年 11 月 1 日、特許データ基準日 2026 年 9 月 14 日） https://patent-i.com/report/jp/applicant/0000023/

[4] よろず知財戦略コンサルティング ブログ記事（2024 年 5 月、孫正義氏の「SoftBank World 2023」での発言を紹介） https://yorozuipsc.com/blog/4038734 ※記事タイトル未確認

[5] よろず知財戦略コンサルティング「ソフトバンクの大量特許出願が 4 月に約 1 万件公開」2025 年 4 月 12 日 https://yorozuipsc.com/blog/41

[6] 日経クロステック「ソフトバンク G の特許が 2 日で一挙に 3500 件超公開、発明の名称と出願人から浮かぶ焦点」2025 年 4 月 https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03093/040200003/ ※

[7] よろず知財戦略コンサルティング「2024 年 7 月・8 月の大量出願と 2025 年 12 月の大量出願」2026 年 2 月 27 日 https://yorozuipsc.com/blog/202478202512

[8] よろず知財戦略コンサルティング「ソフトバンクグループの特許出願 件数推移と 2025 年大量出願の実態調査 エグゼクティブサマリー」（PDF、生成 AI による分析資料） https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/40d17bdbcbef92f2a464.pdf ※

[9] 特許庁「特許出願等統計速報（2025 年 12 月分）」概要（英語版） https://www.jpo.go.jp/e/resources/statistics/syutugan_toukei_sokuho/document/index/202512_overview.pdf

[10] 特許庁「特許行政年次報告書 2026 年版」第 1 部第 1 章「我が国の知財動向」 https://www.jpo.go.jp/resources/report/statusreport/2026/document/index/0101.pdf

[11] IP Force「ソフトバンクグループ株式会社 2025 年 出願公開一覧」（ランキング更新日 2026 年 7 月 17 日） https://ipforce.jp/applicant-150698/2025/publication?s3=4 ※

[12] IP Force「2026 年 特許ランキング」（データ更新日 2026 年 10 月 30 日） https://ipforce.jp/patent-ranking ※

[13] IP Force「2026 年 特許ランキング」（データ更新日 2026 年 10 月 14 日）
https://ipforce.jp/Data/?apn=574 ※

[14] 日経中文網（36Kr 転載）「生成式 AI 专利数量：软银第一，中企排名靠前」2026 年 7 月 30 日（原記事：日本経済新聞「ソフトバンク G、生成 AI の特許数で世界首位 WIPO が報告書」2026 年 7 月 14 日）
https://eu.36kr.com/zh/p/3917577231740292

[15] WIPO, "SPARK: Patent Trends Update in GenAI" (WIPO Technology SPARK Report), 14 July 2026, "Global patenting trends" https://www.wipo.int/web-publications/spark-patent-trends-update-in-genai/en/global-patenting-trends.html

[16] IP Force「ソフトバンクグループ株式会社 2024 年 特許一覧」（ランキング更新日 2026 年 8 月 10 日）
https://ipforce.jp/applicant-150698/2024 ※

[17] IP Force「2025 年 特許ランキング（ソフトバンクグループ株式会社）」（データ更新日 2026 年 8 月 10 日） https://ipforce.jp/patent-ranking/2025?apn=150698 ※

[18] 栗原潔「ソフトバンクの生成 AI 関連大量出願の現状について」Yahoo!ニュース エキスパート（2026 年春頃） https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/af1193b3a92d7b9e7900be3234041a320d371be3 ※本文・掲載日とも未確認（検索結果の抜粋で確認）

[19] よろず知財戦略コンサルティング ブログ記事（2026 年、特許庁の 2025 年審査実績の紹介）
https://yorozuipsc.com/blog/20266477763 ※記事タイトル未確認。原典は特許庁の公表資料

[20] 特許法（昭和 34 年法律第 121 号）第 48 条の 3 第 1 項・第 4 項

[21] Justia Patents（SoftBank Group Corp.を出願人とする米国公開出願を含む一覧ページ）
https://patents.justia.com/assignee/institute-for-diagnostic-research-gmbh-of-the-free-university-of-berlin?page=4746 ※別の出願人名義のページ番号付き一覧に表示されたもの。個別の公報は未確認

[22] TREA「Speed control — Patent Applications」 https://trea.com/industry/speed-control/6a83e00e-ac1c-455f-b09b-6a9603376c9c ※

[23] Verdict (GlobalData)「SoftBank Group gets grant for modular robotic arm joint for mobile manipulation」2024 年 https://www.verdict.co.uk/softbank-group-gets-grant-for-modular-robotic-arm-joint-for-mobile-manipulation/ ※

[24] Verdict (GlobalData)「SoftBank Group patent activity」 https://verdict.co.uk/softbank-group-patent-activity ※集計対象（子会社の範囲）未確認

[25] SoftBank Group Corp.「Partial Amendments to the Articles of Incorporation」2026 年 4 月 28 日
https://group.softbank/en/news/press/20260428_0